

施設・サービス圏域の構成状況における市町村の結びつき
 —生活圏域と市町村合併の整合性から見た圏域設定手法に関する研究—

行政区域 施設・サービス圏域 結合回数
 結合力 市町村 鹿児島県

正会員 ○徳田 光弘*
 同 友清 貴和**

1. はじめに

国や県、市町村をはじめ、法人・民間の施設・サービス機関は、各都道府県内において概ね行政区域¹⁾を基準にエリア分割することで、円滑で効率的な業務体制を築いている。エリア区分は、各種業務状況や特性・規模等によって異なるが、中でも市町村同士で共にエリアを組みやすいものと組みにくいものがあるように、市町村間で結びつきの強弱が存在することは容易に想像できる。

本研究は、行政区域を施設・サービス圏域²⁾の主要な器と捉え、これら各種施設・サービス圏域の構成状況から市町村の結びつきの度合いを明らかにし、現在渦中にある市町村合併等を契機とした広域的な地域施設計画における圏域設定手法への知見を得ようとするものである。

本論では、施設・サービス圏域の構成状況を視座とした市町村の結びつきの度合いを、結合回数・結合力で定義する数量化手法によって導き出すことを目的とする。

2. 研究の方法

対象地は、離島を除く鹿児島県本土(12市59町³⁾)とする。また、対象となる施設・サービス機関は、鹿児島県において想定でき得る限り抽出し、その中で市町村区域を越え県内で閉じた広域的エリア分割がみられること、地図上に明確なエリア境界線が引けること、を満たし、各種資料⁴⁾および対象団体にヒヤリング調査より正確な情報入手できたものとする。結果、39の施設・サービス項目、全524圏域が得られた。これらの構成状況より、以下より市町村間における結びつきの度合いの数量化を行う。

3. 結合回数と結合力(表-1)

ある市町村Aを含む圏域を全て取り上げ、市町村Aと施設・サービス圏域を共有した数、すなわち施設・サービス圏域を介して市町村同士が結びついた回数を「結合回数(整数値)」とする。鹿児島市を例にあげると、鹿児島市×鹿児島市の結合回数33(母数、最大結合回数)に対し、同市郡区域の桜島町と吉田町とが高い値を示しそれぞれ26、23、隣接する日置市郡区域の松元町・郡山町とが13、と表記される。これにより、各市町村における他との結びつきの強弱とその広がりを読み取られる。例えば、上述の

表-1 鹿児島市と他市町村との結合回数と結合力(結合力の値は、小数第2位以下を四捨五入)

	鹿児島市	桜島町	吉田町	松元町	郡山町	日吉町	伊集院町	喜入町	吹上町	東市来町	金峰町	市来町	指宿市	山川町	開聞町	姪娃町	串木野市	知覧町	川辺町	枕崎市	坊津町	大浦町	並沙町	須世田市	蒲生町	大口市	壹刈町	始良町	加治木町	溝辺町	横川町	栗野町	吉松町	隼人町	牧園町	同分市	福山町	垂水市		
結合回数	33	26	23	13	13	11	11	10	10	10	8	8	7	7	7	7	6	4	4	4	4	4	4	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
結合力	1.0	0.8	0.7	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

鹿児島市は、比較的単独で圏域を構成しやすく、続いて同市郡内、日置市郡、指宿市郡、川辺市郡区域の順に緩やかな結びつきの広がりをもつことがわかる。

さらに、各市町村で求めた結合回数の異なる最大結合回数をすべて1.0として無次元化を行う。これによって得られた値を「結合力(単位:pt)」とし、この操作によって市町村間の結びつきの度合いが全市町村同一基準上で求められる。鹿児島市を引合いに出すと、桜島町0.8pt、吉田町0.7pt、松元町・郡元町0.4ptというように表記される。

4. 市町村の類聚性(次頁表-2)

以上の操作をすべての市町村に対して行い、全市町村間の結びつきの有り様をハイライト表示したものが次頁の表-2である。この表より、以下の3点が読み取れる。

①市郡区域毎の結びつき

市郡区域毎に強い結びつきの枠組みをもっている。これは、前論⁵⁾の行政圏域の史的変遷と施設・サービス圏域の関係を求めた際にも得られた結果であるが、結合回数・結合力を用いた数値化によって、視覚的にも明示された。

②市郡区域間の結びつき

鹿児島県には10つの市郡区域が存在するが、市郡区域間でも結びつきに強弱がある。表-3は、市郡区域毎に市町村の結合力から平均値を算出(市郡平均結合力)し、全「市郡区域×市郡区域」を表記したものである。

表-3より、概ね鹿児島県は、市郡区域を基調に4つのまとまり(「鹿児島・日置・指宿・川辺」、「始良・伊佐大口」、「薩摩・出水」、「曾於・肝属」)にわけられる。特に大隈半島に位置する「曾於・肝属」市郡区域は、各市郡内を含め非常に固定化された圏域をもつ。

③市郡区域内の結びつき

各市郡区域内でも市郡によって結びつきのまとまりがある(次頁表-2参照)。具体例を示すと、始良市郡区域は概ね3つのまとまり(「蒲生・始良・加治木・溝辺の4町」、「隼人・霧島・国分市・福山の1市3町」、「牧

表-3 市郡区域間の結合力

市郡区域	鹿児島	日置	指宿	川辺	伊佐	薩摩	曾於	肝属	山本	社	伊集
鹿児島	0.5	0.3	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
日置	0.3	0.8	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
指宿	0.2	0.2	0.8	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
川辺	0.1	0.2	0.2	0.8	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
伊佐	0.1	0.1	0.1	0.1	0.7	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
薩摩	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.8	0.3	0.0	0.0	0.0
曾於	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.9	0.0	0.0
肝属	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.2
山本	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
社	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
伊集	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2

The Degree of Conectivity between Municipalities Based on the Composing Situation of Facility and Service Sphere
 — Study on the Method of Sphere Establishment on the Coordination between Living Sphere and Consolidation of Municipalities —

TOKUDA Mitsuhiro, TOMOKIYO Takakazu

